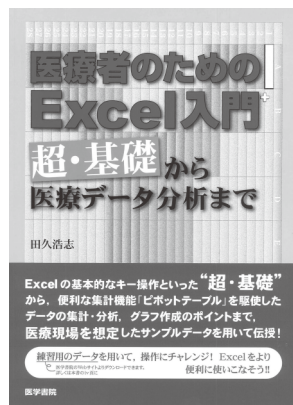


田久浩志(著)

医療者のための Excel 入門 超・基礎から医療データ分析まで

評者 濱岸利夫

(中部学院大学リハビリテーション学部理学療法学科)



パソコン初心者にとってやさしい本がようやく出版された。著者の田久浩志氏は病院管理学(医療管理学)、医療情報学などが専門である。本書のような入門書が今までになかったこと自体が不思議であり、キーボード操作に始まる超・基礎から医療データまでをわかりやすく解説してある。また基礎だけにとどまらず、大量の医療データを分析することに適しているエクセルのピボットテーブル機能をも紹介してあることは注目すべき点である。私も本書をみた瞬間に「今から11年前にこの本があったら、もっと楽に卒業論文を書けただろう……」と大声で叫びたい衝動に駆られた。

今から13年前、私は40歳を超えていたが、大学3年時に一般学生として編入学した。その後、大学4年生で卒業研究に取り組んでいたとき、パソコン操作に苦労した記憶がいまだに鮮明に残っている。私はそれまでにパソコン操作を経験したことは一応あったが、エクセルを使って数値を入力し、データを分析、そしてグラフを作成したことは皆無であった。

ところが、当時の医療統計学の解説書と言えば、開くと必ずどこかに難しい公式や用語などが記述されており、それですぐに嫌気がさしてしまう内容がほとんどであったと記憶している。またエクセルのシートに入力したデータからグラフを作成する際にも、思うようにグラフを作成することができず、何度も作り直す作業を深夜まで取り組んでいた。特に棒グラフに標準

偏差を付ける作業には苦労した。当時は、現在ほどはパソコンが普及していなかった時代背景もあるかもしれない。一般的なパソコン入門書あるいは専門書などを何冊も購入して、ようやく1冊にわずかな記述がしてあったくらいだ。

一方、本書には医療の現場ではよく使用されている平均値と標準偏差はもちろん、各種の統計量の求め方についても詳細に記述されている。初心者にとっては間違いなく手とり足とりの内容になっている。

さらに、エクセルやワードからパワーポイントの原稿を作っていく「スライド原稿を作る便利ワザ」も必見である。読者の皆さんが、時間のないときに「データ入力が楽になる裏ワザ」を眺めるだけでも非常に役立つはずである。

日々の臨床業務に明け暮れる医療者が楽しみながら、対峙している業務内容をまとめ、発表するまでにできる限り時間の節約を念頭に置いて仕上げていくことを考慮した内容となっている。医療者の方々には、本書をぜひとも座右の書としてお手元に置いておかれることをお勧めしたい。

●B5判・200頁・4色刷

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税)

医学書院、2013 年